



大学院だより



大学院 Elective Study : インテル本社前で

平成27年度 大学院 Elective Study

カリフォルニア・イノベーション研修を
通じて得られたもの

1 年 鈴木誠太郎 (衛生学講座)

2015 年 9 月 12 日から 9 月 21 日まで、大学院 Elective Study の一環として、大学の御厚意により US-Japan Forum が主催する研修会、「カリフォルニア・イノベーション研修」に参加させて頂きました。今回、この研修について報告をさせていただきます。

今回の研修会は、大きく分けて①企業・大学訪問②講演会③日米未来フォーラムの 3 つの構成からなります。

① 企業・大学訪問

企業訪問では、Google、Apple、Intel をはじめとした IT 企業やユニオンバンクといった金融業界など、歯科ではあまり関わることのできない企業を訪問し、そこで働いている日本人の方々から、各企業の特徴やそこに至るまでの経緯、アメリカで暮らすことの価値など、貴重なお話を伺うことができました。

大学訪問では、スタンフォード大学、UC バークレー、サンノゼ州立大学を訪問し、工学部や医学部の研究室の見学、講義、学生交流などを通じて、世界でもトップクラスの大学で学ぶことはどのようなことなのか、それぞれの大学の特色の違いなどを自分自身で体感できる貴重な経験をすることができました。

② 講演会

講演会として、US-Japan Forum 代表の井手先生より日米の歴史、今回の研修で同行されていた楽天株式会社社員の方々からプレゼンテーションのコツや、実際の企業での様子、その他に製薬企業や日系移民の方から、様々な分野にわたる講演を頂きました。

③ 日米未来フォーラム

US-Japan Forum では毎年様々なテーマについて、日米の大学生がプレゼンテーションを行う「日米未来フォーラム」が開催されています。今回は「カリフォルニアワインを世界に広めた男」をもとに、5グループがそれぞれのテーマで発表を行いました。各大学からの参加者は、それぞれ違ったバックグラウンドを持っており、思いもよらなかった斬新な意見や、議論をさらに深める発言など、このような機会だからこそ経験できるようなプレゼンテーションに向けてのディスカッションを経験することができました。

これらの経験を通じて、私が強く感じたことは3点あります。1つは、英語は目標に到達するための手段でしかないということです。海外でコミュニケーションを取るためには英語は非常に有益なツールですが、英語の勉強のモチベーションを保つためには「英語の上達」を目標にするのではなく、「自分が海外で活躍するという目標を達成するために英語が必要」という認識を持つことが重要なのではないかと感じました。

2点目は、海外に出ることの意義についてです。今年から大学院に入学した私にとって、まだ「研究」に対し、漠然としたイメージしかもっていませんでしたし、ましてや海外で研究することなど想像したこともありませんでした。しかし、今回の研修で各大学の研究室の様子や、実際に今回の研修で2週間、研究室で研修されていた本学の先

輩からお話を伺い、環境や文化の違いを含め、日本では学ぶことのできない何か海外にあることを感じる事ができました。今後、本格的な研究を始めるにあたって早い段階でこのようなことに気づくことができたのは、非常に幸運なことであったのではないかと思います。



3点目は、「人との出会い・繋がり的重要性」です。アメリカでお話を伺うことのできた方々のお話の中で共通していたことは、それぞれの方々がそれまでの経緯の中で困難なことに直面したとき、必ず周りの人々の助けがあったと仰っていたことです。そこが他国の地であったとしても、人との出会い・繋がり的重要性は変わらず、むしろより一層必要なものであると感じました。これに関連して、US-Japan Forum 代表の井手先生は「見返りは求めず、人を助けてあげることが重要だ」と仰っていました。これは我々に関わる医療の本質にも繋がることではないかと感じています。また、アメリカで働くある日本人の方の言葉に「種をいろいろなところにまいておきなさい」というものがありました。これは、出会った人々との繋がりを大事にしてそれを続けていくことが、後にその人々が自分を助けてくれる人になるということです。今回の研修で得ることのできた人との繋がりを、更に重要であると感じられた言葉であったように感じます。



今回の研修は1週間程度と、比較的短い期間ではありましたが、様々な経験を通じ、自分の視野を広げ、価値観を変化させるには十分であったように感じます。しかし、まだ海外に対して思い残すこともあることも事実です。今後、研究を始めていくにあたり、この先での海外での大きな可能性や希望を認識することができた研修でありました。

最後になりますが、この様な機会を与えてくださった井出吉信学長、田崎雅和大学院研究科長をはじめ、関係各位に感謝申し上げます。また、現地で今回の研修に尽力して下さったUS-Japan Forum 代表、井手祐二先生に深謝致します。そして、今回の研修への参加を勧めてくださった杉原教授、ならびに長期不在でご迷惑をおかけしました衛生学講座の皆様にも心より感謝いたします。

カリフォルニア・イノベーション研修に参加して

2年 東川 明日香 (生理学講座)

まず初めに、今回このような研修参加の機会をくださった井出学長、研修参加のきっかけを提供してくださった田崎大学院研究科長、研修中の不在期間ご迷惑をおかけした在籍する生理学講座ならびに副科目でお世話になっております麻醉科の先生方に深謝いたします。研修参加の内容と、今回得た自身の経験について報告させていただきます。

今年ですでに11年の歴史を持つこのプログラムは、鹿児島大学北米教育研究センター長・特任教授であった井手祐二先生が、在任中に設立した

US-Japan Forum と複数の国内大学による合同海外研修事業です。米国の多民族文化と科学技術のメッカでもあるカリフォルニア州サンノゼ市近郊のシリコンバレーを中心に、米国の大学や企業を訪問します。そこで異なる文化や価値観を学ぶこと、また海外で活躍する起業家やコンサルタントによる講演会、研究者や技術者とのディスカッションを行い、国際的な広い視野を身につけると共に、人生や勉学に対する目標を定め、自己実現の基礎とすることを目的としています。

研修後半では、サンノゼ州立大学の学生と研修期間の異なるグローバルプロ養成プログラム、アントプレナープログラムを含むすべての研修プログラム合同で日米未来フォーラムに参加し日米間の歴史を学び、今後の日米関係や世界のあるべき姿について英語でのディスカッションと発表を行いました。日米未来フォーラムはこのたび日米ワイン産業の将来をテーマとし今年で10回目の開催となりました。



実際に研修に出発する前段階から、様々な形で研修へのモチベーションが高まるような施策が張り巡らされていました。例えばその一つに、岩手大学で使用されているweb上でのオンライン学習システムICTプラットフォームの利用がありました。動画映像を用いた語学研修、訪問企業の歴史や、日米間の歴史・文化の差を勉強すると同時に、事前に割り振られたUS-Japan Forumでの担当テーマについて事前学習を行い、英文レポートの提出、テーマを共にする各大学の学生とのコンタクト、研修内容について各学習内容のすり合わせを行うことが可能でした。

研修開始とともに2週間前より参加していたグローバルプロ・アントプレナープログラムの学生に合流し、到着当日から簡単な英語研修、現地での生活の注意事項の確認を行い、先に企業研修を行っていたグローバルプロ養成プログラムの学生による企業研修発表を聴講しました。その後、組まれた日程に従って企業訪問、企業家や、現地で働く方々のお話を拝聴しました。US-Japan Forumの準備では各担当テーマに分かれて、グループ内の学生と何度もディスカッションを行い、プレゼンテーションを完成させました。



議論を繰り返しプレゼンテーションの方法を吟味するため、その作業は朝5時近くまで及ぶことも多々あり、参加者たちは疲労の中になりましたが、少しでも素晴らしいプレゼンテーションにするため努力を惜しみませんでした。この経験は貴重なものとなりました。

この研修の特徴はあらゆる背景を持った年齢の異なる方々と知り合い、話し合いを行う場が多く提供されたということに尽きると思います。背景のまったく異なる初対面の方に自分を紹介し、自分がなぜこの研修に参加しているのか、この研修で何を達成することが目的であるかを毎回発信していく必要性に迫られました。必然自分が本当にしたいこと、成してきたこと、他人について自分の強みや弱みを含めた紹介の仕方、今成すべきことについて常に考えさせられました。

講演を受けた日系移民の方からは自分の強みを持ち自分を信じることで人が集まる人間になりなさいとお話を受けました。自分ひとりのできる仕事には限界があるが人が集まりそれぞれの強みを

発揮することでより効率的に多くのものを生み出すことができるのだということです。

また、1つ1つの出会いを大切にすること、コミュニケーション能力を養い人脈の輪を広げることで、後にふとしたことで自分の身を助ける糧にその経験がなると多くの方が共通して述べていました。海外に拠点を置く研究者ののびのびとした発想、研究拠点を海外に置くことの魅力、実際に行った海外に拠点を移すに当たって行ったステップをご本人の体験を踏まえてお聞きすることで海外での研究をより身近にとらえることが可能になりました。

参加者もみなモチベーションが高く彼らとの出会いもこの研修で得た貴重な財産となりました。参加者の中で私が印象に残った方々について2人ほど紹介したいと思います。

研修参加前に起業し、出資者を募る動画を作成したので見てくださいとある学生に声をかけられたことがありました。事前に話を聞いていない状況であれば、学部学生が製作したとは思えない優れたクオリティのものでした。彼の今回の研修参加についての目標は、いかに起業家たちが資金集めを行っているのか、企業主体を置くに適した場所その利点や欠点は何かを知ること、また将来につながるような人脈づくりを行っていくことにありました。彼は、研修参加の明確な目標を持ち資金調達のアドバイスをくれそうな企業家にはすかさずコンタクトを取り、その輪を広げることを丹念に行っていました。自社の強みを前面に押し出したプレゼンに多くの起業家が関心を示していました。



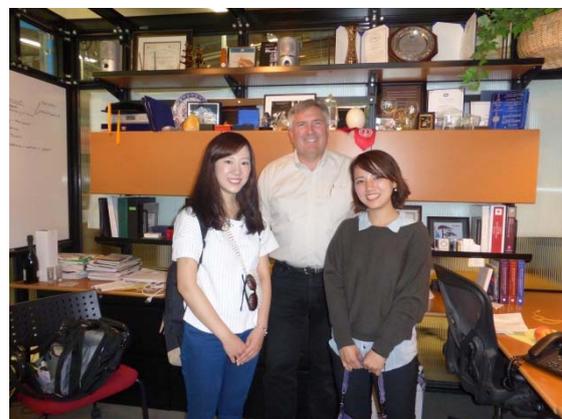
今回研修では一定の連絡系統を確立するために、リーダーの決定を行いました。率先してリーダー役を買って出てくれた方がいました。その参加者は社会人として企業に勤務し、平日の夜と土日を社会人大学院生として学習に費やしているとのことでした。仕事と学生二足の草鞋を履き年齢的にも年上である彼は参加者の中でもダントツにバイタリテイにあふれておりました。また、今回の研修中常に自己企業のアピールを積極的に行っていたのが印象に残っています。自社に強い思い入れを感じ、それを前面に出してくる彼のような社員がいる企業はなかなか興味深いかいと、企業にまで関心を持つことができました。社内でもすでに部下を持つという彼は、プレゼンテーション作成時には、1度もパワーポイントでプレゼンテーションを作成したことのない学生に短時間の間に一通りを教え込み、さらに自信をつけ発表に臨ませるといふ指導力を発揮しました。仕事を回してみたい人材と上司が考えることは容易に想像がつかれました。コミュニケーションの場を利用した上手な自己アピールと課題に直面した際の柔軟性が、人を引き付けふとした時にチャンスをつかむきっかけとなっていると感じられました。

歯科業界という狭い世界で生活をしている私にとって、同世代で意識の高い学生等の方々と出会うことができたのは大変貴重な体験になりました。研究者・歯科医師・一個人としてより大きなことを成すには、自分の強みを持ち、それをしっかり他にアピールすることで多くの人を巻き込み事業を発展させていくことが今後求められると考えます。今回研修を通じて、自己アピールの方法や人と人をつなぎ輪を広げることの大切さを学ぶことができたことは大きな糧になりました。また、このレポートを通じて次世代の多くの大学院生が Elective Study に関心をいただき参加に意欲を持っていただけたらと思います。この研修に参加させていただき大変感謝しています。

グローバルプロ養成プログラム研修報告

4年 丸茂 知子 (口腔顎顔面外科学講座)

8月28日から9月28日の1ヶ月間、大学のご厚意によりアメリカ・カリフォルニア州で行われた海外研修に参加させていただきました。アメリカ西海岸に広がる、シリコンバレーと呼ばれるこの地域は、ソフトウェアやハイテク企業などIT産業の一大拠点であるのみならず、バイオテクノロジー発祥の地として、多くの優れたビジネスパーソンや研究者が活躍されています。また、それらの企業と産学連携を結ぶ、スタンフォード大学、カリフォルニア州立大学サンフランシスコ校、カリフォルニア州立大学バークレー校などの一流大学も散在しており、世界トップクラスの研究・教育の現場を実際に訪れることが出来ました。



私はスタンフォード大学の光医学分子イメージング研究室で2週間の研修を行いました。この研究室では、蛍光バイオイメージング分野におけるパイオニアで、現在もその最先端の研究を行っている Chris contag 教授の指導のもと、癌や細菌、エクソソームについての研究を行っていました。研修中は、彼らの代表的な論文について筆頭著者から直接、解説講義を拝聴し、実際に稼働中の実験に参加、結果の解析を行うなど、非常に貴重な体験を致しました。私自身、『癌細胞と自家蛍光』をテーマに研究を行っていたため、研究室のカンファレンスに参加した際には、私の研究内容についてイントロダクションを行い、研究へのアドバイスを頂きました。彼らは惜しげも無く、今までの研究や経験から得た知見を我々に授けてくれました。自身が学ぶ分野における世界最先端の研究が生まれていく過程を目の当たりにすることは、今後大学で研究を行うにあたり、とても有意義な体験でした。

他にも研修期間に開催されたセミナーや座談会を通して、多くの研究者や企業、ベンチャー関係の仕事に従事する方々とお話する機会を得ました。そこで私が見たものは、人種も経歴も実に多様な人々が、英語を共通言語とし『人々の生活を豊かにしたい』という理念のもと、常にポジティブに仕事に取り組む姿でした。アメリカにおける職場や研究室は、確かに、眼を見張るような最先端の設備が整えられている場所もありましたが、日本と同等か、それ以上に質素な設備や予算で研究を行っている場所も多くありました。しかしながら、彼らは間違いなく1分1秒を争う研究開発の最先端にいるのです。なぜそのようなことが可能なのでしょうか。それは彼らが常に分野や領域を超え、多様な文化、意見を享受することをポジティブに捉える環境を作り上げ、そこに身をおいているからだ、彼らと共に過ごす内に気づきました。実現不可能な理由を探るのではなく、実現を妨げる原因を解決しようとする彼らの姿勢に、私は深い感銘を受けました。そうすることで彼らは、部署や、研究室、ときに会社の枠を超えて、積極的に意見を請い、多角的なディスカッションを行い、より質の高い結果を生み出していたのです。



もう一つ、今回の研修で私にとって大きな収穫だったのは、カリフォルニアでの生活を共に過ごした研修参加者たちとの出会いです。歯科の単科大学に入学して、既に10年が経過しようとしている私にとって、年齢も出身も専門分野も全く異なる彼らとの生活は、毎日が新鮮な驚きと発見の連続でした。研修前半は夕食後に食堂に集まり、深夜まで各々が研修先から与えられた課題をこなし、論文を読みふける毎日でした。研修後半の私の楽

しみの1つが、彼らとのディスカッションと日々の報告会です。同じ講演を拝聴し、各々が自分の中に落とし込んだ結論が、全く逆の方向性だったこともありました。異なる視点や切り口の解釈は非常に興味深く、互いを掘り下げるような熱い議論は、寝る間を惜しんで毎晩深夜にまで及びました。彼らの積極的な姿勢に私も強く刺激を受け、食欲に物事に挑む姿は周囲に大きな影響を与えるのだと実感しました。

今回の研修をとおして、皆が知るような大きな成果は、決して一人の力では成し遂げられないのだということを強く感じました。大きな結果を得るためには、成熟した人間関係の形成と、それを前提とした忌憚のない意見交換が不可欠であり、目的を達成するためになにが必要であるかを考え、そのために自分がどのような役割をこなすべきかを認識することが重要であると学びました。それは業種や分野にかかわらず、全ての仕事に通じることだと思われま。まず今の私が出来ることとして、現在作成中の論文の完成度をより一層高めると共に、診療・研究・教育の場において、今回の経験を活かし貢献していきたいと考えています。その上で、自身の研究分野である蛍光バイオイメージングの最先端の研究手法を修得・研鑽するため、また私自身さらに幅広い視野や多様な観点を養いたいと、留学に強い興味を持つようになりました。日本の長所を活かしつつ、アメリカの良い点を取り入れることができれば、より一層質の高い診療・研究・教育を大学において実現することが出来ると考えております。今回の研修を単なる貴重な経験として終わらせるのではなく、『病気で苦しむ人を減らし、その生活を豊かにする』という共通の理念をとおして、東京歯科大学の、ひいては日本の歯科医療の更なる発展と社会への貢献に繋がりたいと思っております。

最後になりましたが、今回このように貴重な機会を与えてくださった井出学長、田崎大学院研究科長をはじめ、大学関係の皆様、また現地にて大変お世話になりましたオーガナイザーの井手祐二先生や関係各位に、感謝の気持ちとともに深く御礼申し上げます。

Report on the Global Professional Program

2年 Akram Al-Wahabi (臨床検査病理学講座)

Global Professional Program, in which 14 participants from different universities in Japan joined, presented a real opportunity to observe from a close range the differences between Japan and US in areas like research and innovation and also see the differences between the two countries in general.

On the same day of arrival and after everyone knew their room and roommate, there was an orientation session that described the different activities in which the participants will partake and the daily schedule of the global professional program members. Another interesting session that took part in the first day was the lecture given by Mr. Ide and in which he talked about some interesting points about the culture and the city of San Francisco including some information about Dr. Takeyama the founder of TDC when he went to the states and studied under Dr. Van Den Berg

The next couple of days were busy, with English conversation and basic business English lessons taking place for the most part of the whole two days and being taught by Ms. Ide who had worked as an English teacher and who has an immense experience in teaching Japanese students other instructors were also present and taught different points to the students about speaking in general and also safety precaution. Also during the first couple of days, some general tasks were appointed to each and every participant including documenting the different activities by photographs, also evaluating the finances and scheduling for the times of leaving and arriving for the participants. A final note from Mr. Ide was to preparing for the US-Japan forum presentation immediately due to the limited amount of time when the

innovation group joins later. By the end of the first couple of days, the students had a general but clear idea about their respective duties and the tasks laid in front of them, Mr. Ide and the instructors were very kind and the students tried their best to master the information that they were receiving. The atmosphere was amazing and by the end of the day, everyone can feel the improvement that the participants achieved on both the language and the preparation level.



The 2nd part of the program was a joint activity with the innovation program of the US-Japan forum that had 14 participants with whom we took part in activities such as visits to different universities like; Stanford, San Jose State university, UC Berkeley. Also, the visits included sites like Google, Apple, Intel and NASA museum. Other sightseeing areas like the golden gate bridge were also visited. During every visit, the participants would be able to get to know more about the location, history and innovation behind such institutions and memorial places and occasionally have the opportunity to listen to a lecture from the aforementioned institution's speakers. The speakers included employees of companies who are Japanese and professors from Stanford and UC Berkeley. Perhaps for me the most notable one was the lecture by Dr. Andrew Kalman who is a consulting Assistant Professor in Aeronautics and astronautics. What attracted me to his lecture was his passion for what he does

and that the same mentality that he had throughout his life in following his passion and which he had ever since he was a high school student. He was very interested in engineering and in his words “designing things” that lead him to learn not only engineering but also programming in order for him to achieve his aspirations.



Another very interesting activity of this part, was the US-Japan Forum’s participants’ preparation and presentation about the future of wine industry. Before the start of the program, all the participants were divided into 5 different groups, all of which had to come up with their perspective of the future of wine industry. It was very interesting to see how the participants would spend most of their nights working on their presentation until early morning hours. Some of the participants had a limited English fluency but that didn't stop them from working very hard and making a successful presentation that everyone enjoyed at the end.

Another part of the innovation period was the evening lectures in which the participants listened to speeches by Japanese pioneers in the US including but not limited to, Chika Hashimoto the CEO of Gallasus Inc and Mie kurosaka from Rakuten.

必修講義

今年度も前期必修講義の集中講義が行われ、各講義終了後には試験を実施しました。

平成27年9月8日、9日に1年生を対象とした「医療統計学」の講義が行われ、的確な研究手法で効率のよい研究を進めて行くために必要な知識を身につけることを目的に行われました。

9月17日、18日には2年生を対象とした「病態学」の講義が行われ、口腔領域に発生する病変について原因や病体を理解し、研究・診断・治療につながる知識を整理することを目的に行われました。

後期必修講義は、平成27年12月3日、4日に1年生を対象に、12月10日、11日に2年生を対象に集中講義を行う予定です。



千葉県立保健医療大学 大川教授による統計学の講義

研究進捗状況報告会

平成27年6月22日、23日、7月1日、3日の4日間わたり、大学院研究進捗状況報告会が行われました。

本報告会は、大学院3年次生41名が研究内容を学内に広く周知するとともに、各自の研究の進捗状況を把握し、今後の研究・論文作成に役立ててもらおうことを目的に開催しました。

当日は、大学院生のみならず、発表した3年次生の指導教員の参加もあり、活発な質疑が行われ、学位論文作成のための有意義な報告会となりました。



報告会風景

学生会より

平成27年度大学院学生会総会

大学院学生会長 4年 鈴木瑛一（歯周病学講座）



井出学長から激励のお言葉

平成27年7月15日（火）午後7時より、水道橋校舎本館14階会議室において、平成27年度大学院学生会総会が開催されました。

総会に先立ち、学長の井出吉信先生より研究と教育における大学院生の役割についてお話があり、歯科界のリーダーとして引っ張っていく意識を常に持つようにとの激励のメッセージを頂戴しました。その後、大学院研究科長の田崎雅和先生からは、研究発表の総括と学位論文のあり方、卒業後の指導者としての心がけについてお話をいただきました。続いて教務部長の東俊文先生より、組織としての若き知の必要性、他講座との連携について、学生部長の齋藤淳先生からは研究への取り組

み方、歯科界を牽引する自覚を持つことについて、お言葉をいただきました。

学生総会には、100名を越える多くの大学院生が参加しました。平成26年度会計報告、平成27年度活動予定、1年次の「学生教育研究災害保険・学研災付帯賠償責任保険」加入金の学生会費からの支出について承認されました。また、研究機器や動物舎使用時の注意事項や問題点を提示し、改善点について検討しました。加えて、ティーチング・アシスタント、リサーチ・アシスタント、Elective Study についての案内を行いました。大学院セミナーの開催場所や動物舎の予約時の要望など、参加者から積極的な意見が挙がりました。学生会としては、今後も大学院生の声を聞き、少しでも研究や生活環境が改善されるよう努めていきたいと考えております。



田崎大学院研究科長からのメッセージ

編集後記

大学院だより 14号は **Elective Study** について特集しました。今年もこのプログラムを通して、4名の大学院生が海外で積極的に活動してきました。彼らの生き生きとした活躍の様子がうかがえます。

研究進捗発表会は今年から本格実施となりました。講座・研究室の垣根を越えた意見交換の中から、多くの学びがあったことでしょう。これからの研究が加速され、素晴らしい成果として結実することを期待しています。

(齋藤 記)

